p.7

④ ある商店の四半期ごとの売上高が，2002 年は 500 万円(第 1 四半期)，300 万円(第 2 四半期)，400 万円(第 3 四半期)，600 万円(第 4 四半期)，2003 年は 400 万円(第 1 四半期)であるとき，2002 年第 3 四半期の四半期移動平均は，

$$\frac{\frac{1}{2}500+300+400+600+\frac{1}{2}400}{4}=437.5\ (万円)$$

となります．
一方，この商店の 2002 年 1 月から 2003 年 1 月までの月ごとの売上高が 200，150，150，80，

2003 年 3 月

100，120，100，150，150，200，150，250，150，100，150 (万円)であったとすると，2002 年 7 月の 12 期移動平均は，

$$\frac{\frac{1}{2}\cdot 200+150+150+80+\cdots+250+150+100+\frac{1}{2}\cdot 150}{12}=168.75$$

$$\frac{\frac{1}{2}\cdot 200+150+150+80+\cdots+200+150+250+\frac{1}{2}\cdot 150}{12}=147.92$$

p.9

2001 年第 1 四半期の移動平均 ($\bar{C}$) は 67 (小数点以下四捨五入) となります．表の空欄に四半

2000 年

p.63

② A={2 つの目の和が 8 である}，B={2 つの目が等しい} とする．事象 A は，{1, 7}，{2, 6}，{3, 5}，{4, 4}，{5, 3}，{6, 2}，{7, 1} の 7 通りであるから，$P(A)=\frac{7}{36}$ となる．一方，$A\cap B$

事象 A は，{2,6}，{3,5}，{4,4}，{5,3}，{6,2} の 5 通り $\frac{5}{36}$

$$\frac{\frac{1}{36}}{\frac{7}{36}}=\frac{1}{7}$$ となる．

$$\frac{\frac{1}{36}}{\frac{5}{36}}=\frac{1}{5}$$

③ 事象 A は前問と同じで C={2 つの目がともに偶数である} とすると，$A\cap C$ は，{2, 6}，{4, 4}，{6, 2} の 3 通りであるから，$P(A\cap C)=\frac{3}{36}$ となる．したがって，求める確率は，

$$P(C|A)=\frac{\frac{3}{36}}{\frac{7}{36}}=\frac{3}{7}$$ となる．

$$\frac{\frac{3}{36}}{\frac{5}{36}}=\frac{3}{5}$$

p.69

2 項分布

成功する確率が p である実験を独立に n 回繰り返したときの成功回数を X とします．このとき，X は以下の確率関数をもつことが知られています．

$$p(x)=P(X=x)={}_n\mathrm{C}_r p^x(1-p)^{n-x},\ (x=0,\ 1,\ 2,\ \cdots,\ n)$$

${}_n\mathrm{C}_x$

p.77

定義と公式

$X\sim\mathrm{N}(\mu,\ \sigma^2)$ からの無作為標本を $\{X_1,\ X_2,\ \cdots,\ X_n\}$ とし，標本平均値を $X=(\sum_{i=1}^{n}X_j)/n$，標本分散を $S^2=\sum_{i=1}^{n}(X_i-X)^2/(n-1)$ とします．このとき，

$\overline{X}$　　$\overline{X}$

p.83

標本平均値の期待値と分散

$$E[X]=\mu,\ \mathrm{V}[X]=\frac{\sigma^2}{n}$$

$\overline{X}$　　$\overline{X}$

p.89

公式の使い方（例）

$X\sim\mathrm{N}(0,\ 4)$ からの大きさ 4 の標本平均値が 0.5，$S^2=1.2^2$ であったとします．分散が既知な

μ

p.119

れます．

③　この場合，棄却域は $\boxed{\dfrac{|\overline{X}_1-\overline{X}_2|}{\sqrt{0.13}}\leq-1.645}$

$$\frac{\overline{X}_1-\overline{X}_2}{\sqrt{0.13}}$$